

第6回



入選作品集

令和4年7月
(一社) 家の光協会 普及企画部

■ ■ 総 評 ■ ■

J Aの教育文化活動は、「家の光三誌」を積極的に活用しながら本店や支店での協同活動を展開することによって、J A、組合員、地域とのつながりをつくり、J Aの事業や組織の根を広げていくことをめざしています。第6回めを数える家活グランプリですが、今回もコロナ禍の中でさまざまな制約があるにもかかわらず、前向きな姿勢で創意工夫し、仲間と協力しながら取り組む実践事例が多く寄せられました。4人の審査委員により、①組織・地域の特性を踏まえて、創意工夫して「家の光三誌」の記事を活用しているか、②教育文化活動や記事活用の効果と広がりがみられるか、③豊かな表現力で活動内容が表されているか、を審査基準として、書類選考を通過した12の作品にたいする審査がおこなわれました。

いずれも甲乙つけがたい僅差の内容でしたが、厳正な審査の結果、各賞を決定しました。これらの実践事例に学びながら、家活の輪がますます大きくなっていくことを期待しています。

審査委員長 摂南大学 教授 北川 太一

【第6回「家活グランプリ」審査委員】

審査委員長 摂南大学 教授 北川 太一

審査委員 家の光専門講師 佐久間 幸子

家の光協会 代表理事専務 河地 尚之

家の光協会 家の光編集長 山本 樹

※肩書きは審査会当時・敬称略

* 目 次 *

【最優秀賞】

- 「立ち止まりたくない！ 新たな挑戦は『家の光』とともに」
神奈川県 J A あつぎ 依知支所 経済課 齋藤 美穂・・・・・・・・・・ 3

【優 秀 賞】

- 「家活から繋がっていく仲間づくり」
愛知県 J A あいち中央 安城北部ブロック 坂田 由里子・・・・・・・・・・ 6
- 「『家の光ディスプレイコンテスト』に参加して」
福井県 J A 福井県 春江支店 共済課 笹原 久美子・・・・・・・・・・ 8

【佳 作】

- 「『家の光』は私の道しるべ」
山梨県 J A 南アルプス市 営農指導部 生活指導課 五味 広子・・・・・・・・ 10
- 「“在宅家活”で気づいた家の光の良さ」
静岡県 J A しみず 営農部 営農企画課 萩原 靖子・・・・・・・・・・ 12
- 「それぞれの個性が光る活動を！！」
愛知県 J A あいち中央 安城西部ブロック 岩井 ゆかり・・・・・・・・ 14

※「家の光用字用語集」にもとづき、本文の表記を一部変更しています。

※所属は応募当時のものです。

立ち止まりたくない！ 新たな挑戦は『家の光』とともに

神奈川県 J A あつぎ 依知支所 経済課
齋 藤 美 穂

「コロナを理由に何もかもを中止にしたくない」。生活指導事業を担当する多くのみなさまの心に浮かんでいるのではないのでしょうか。

“例年通り”が通用しない日々は、気が付けば2年という長い期間、女性部活動へ大きな影響を与えています。

多くの対策を十分にとることで、少しずつ女性部活動を再開していますが、そのなかで課題となっていたのが、参加者同士の距離が十分に取れること、道具をできる限り共用しないこと、そして、女性部員が参加したい！と思える企画を考えることでした。

そこで、私が初めに行ったのは、開催場所を2ヶ所に分けることでした。

現在私が担当している依知地区は、縦に長く、地区内には依知支所と依知南支店の2店舗があります。これまでは依知支所での活動を中心としていましたが、同じ内容の講習会を依知南支店でも開催するようにし、参加者の分散と移動距離の短縮を図ったのです。

この時に活用したのが、『家の光』2017年7月号に掲載されている「保冷剤で作ろう！ふるふる芳香剤」です。涼し気な見た目はもちろん、自宅で余りがちな保冷剤を再利用することができるため、SDGsの目標12「つくる責任つかう責任」にもつながるという点から、多くの方に興味を持ってもらうことができました。おかげで2ヶ所に分けての開催は大成功。今でも玄関に飾られているのを見つけては嬉しい気持ちが溢れてきます。

しかし、多くの対策を取っていても集まるのが難しい期間もあり、今度は「うち時間」を楽しめる企画に頭を悩ませていました。

そのときにヒントを与えてくれたのが、『家の光』に毎月掲載されているクロスワードです。これをみて、「過去にクイズや脳トレを特集していたはず」と思い出し、『家の光』2018年9月号の別冊付録「いきいき『脳トレ』BOOK」を引

っ張り出してきては、「おうちで脳トレ大会」の実施につなげました。

こちらは、7種類のクイズを選出し、定期回覧に載せて女性部員に配布、同じく回覧を通して解答用紙を提出してもらう方法で行いました。これなら外出をせず、誰もが自宅で参加できると、女性部員のみなさまからの提出を心待ちにしていました。

いざ回覧回収をしたところ、47名の提出があり、普段講習会などの出席がない方にも参加してもらうことができました。また、提出用の解答用紙に、クイズや企画に対する感想を書く欄を設けたところ、「いい刺激になった」「空いた時間が充実した」など、高評価をいただくこともできました。

なかでも嬉しかったのが、「家族で知恵を出し合い、家族団らんにつながった」という感想でした。「おうち時間」を楽しんでもらうためにと始めた企画が家族にも広がり、“協同の心”を育むきっかけとなったのです。

私は、会える機会が少ないからこそ一方通行になってしまわないよう、それぞれに向けて手書きで返信をしました。そこには2021年10月号の「脳活ドリル」や毎月のクロスワードについても記載し、『家の光』を続けて手に取っていただけるよう工夫もしています。これをきっかけに、「家活」の輪が広がっていくことを期待しています。

また、JAあつぎでは、『家の光』をより多くの方に楽しんでもらうために、新たな取り組みを二つ行いました。

一つ目は、各地区生活指導員の提案で実施した「家の光クイズ大会」です。こちらは『家の光』購読者を対象に、購読への感謝の気持ちを伝えるとともに、より記事への関心を高めてもらいたいという目的から行いました。

クイズは2021年の冊子から4問出題し、1月号に同封したチラシに○×で答えてもらう形式です。多くの方に参加してもらうことができただけでなく、同時に実施したアンケートで購読者の愛読ポイントや今後の「家活」のヒント等を知ることでもでき、有意義な取り組みとなりました。

二つ目は、JAあつぎ各地区および目的別グループによる、『家の光』で募集していた「ザ・地産地消 家の光料理コンテスト」への応募です。地場産農畜産物をどのように活かすか試行錯誤を重ね、それぞれ自慢の一品で応募をしたところ、なん

と19作品のうち4作品が入賞することができました。

この結果は、レシピの考案を通して女性部員のみなさまが地域を見直し、自慢の地場産物を愛情持って調理したことで得られたものだと考えています。

また、コロナ禍で料理講習会を控えていたため、久しぶりに集まって食材に触れるきっかけにもなりました。「旬の食材ならこれだね」「それならあの人が作っているね」と話し合う姿は、とても輝いていました。

新型コロナウイルス感染症の影響はまだまだ続きそうですが、『家の光』はそんな状況にも小さな光を灯し、私達にヒントやきっかけを与え導いてくれます。私達は「家活」を通して、立ち止まっていた状態から道を変え、少しずつ歩みを再開しているのです。これからも女性部員のみなさまと歩み続けていけるよう、挑戦を続けていきます。

家活から繋がっていく仲間づくり

愛知県 J A あいち中央 安城北部ブロック

坂 田 由 里 子

私は日頃から組合員と対話をすることで、生活にかかわる思いや願いを J A 事業へ総合的に結びつけるよう心がけてきました。その多くは年金世代であり、地域に住む子育て世代の女性は J A 事業や女性組織活動に馴染みのない方も多く、この世代に向けた情報発信をすることが大切だと考えています。これはあいち中央全体においても共通の課題であり、この現状を打破すべく各ブロックを拠点とした会員制の統一名称「フレミズの森」を立ち上げることになりました。皆で話し合い対象者を 55 歳までとし、今年度は全ブロック統一企画で 1 回限りのお試しと 3 回コースを各ブロックで開催すると決めました。また、今年は『家の光』購読普及 3 カ年計画の最終年度です。これらを踏まえて私の今年度の目標は

①「フレミズの森」会員獲得によりイキイキレディース会員の増加

②家活を取り入れた組織活動で J A を知ってもらう

③『家の光』推奨による新規購読獲得

としました。

目標に対する活動経過とその成果は①の「フレミズの森」会員獲得では、まずお試し企画として「簡単！時短パン」作りを行いました。参加者募集や準備は各ブロックで行うため、若い来店者を見かけると簡単・時短を売り文句に「楽しいから一緒に挑戦しましょう」と誘いました。お試し終了後は「とても簡単で美味しいから家でも作ります」や「終始、楽しく作業ができました。感謝！！」と皆が満足し、参加者 11 名全員から会員登録と次の 3 回コースの申し込みもありました。その内容は 10 月に「野菜の勉強会とハロウィンスイーツ」作り、12 月に「クリスマスリース」作り、2 月に「飾り巻き寿司」作りです。野菜の勉強会では講師を産直の食育ソムリエに依頼し、参加者は野菜やお米の扱い方等メモを取りながら真剣に学びました。「今まで知らなかったこともあり勉強になりました。産直の安全・安心への努力も分かり今後産直で野菜を購入したいです」という声が多く聞かれ、産直事業利用に繋がると思います。ハロウィンスイーツは『家の光』2019 年 7 月号の「オーブン要らず！ 焼かない夏のケーキ」を応用し、カボチャクリームを使ったカップケーキを作り好評でした。クリスマスリースでは花材に薔薇の香りがするソープフラワーも使い大変喜ばれました。飾り巻き寿司も家活で 16 名が参加予定です。1 月末現在、フレミズの森会員は 20 名獲得しました。「普段はできない事

がやれて気分転換にもなり良い時間が過ごせました」等、有意義で楽しいと実感してもらえたことで、また参加したいと会員登録に結びついたのでと思います。

②家活を取り入れた組織活動では、子育て世代を意識し、『家の光』の「UVパール3WAYネックレス」（2021年5月号）、「多肉植物の寄せ植え」（2019年6月号）、「裏地付きバッグ」（2017年9月号別冊付録）、「小さな切り絵」（2020年9月号別冊付録）、「グラスサンドアート」（2021年7月号）の講習会を開催しました。講習会に興味を持った初めての参加者にはJAへの入口となり、その時々貯金・共済等の宣伝をすると相談を受けJA事業利用のきっかけになりました。また『家の光』にも触れ参加者が興味のある記事やお役立ち情報を抜粋して紹介し、貸出見本誌も用意して気楽に読んでもらえるよう仕掛けています。講習会の途中で様子を見ながら個別にお話すると、「農家の人が読む本だと思ってたけどいろいろ載っていいね」と新規購読に繋がりました。本の内容をもう一步踏み込んで紹介していくことも大切だと感じました。

③『家の光』推奨では朝礼スピーチの当番に『家の光』の記事を取り上げてもらい職員も読む機会を作りました。JAビギナーズガイド・危険回避術等多様な記事が話題になり、SDGsをテーマにした職員は彼自身の目標を考え発表してくれました。職員も少しずつ関心を持ってくれるようになり、支店の一角に『家の光』コーナーの設置や支店独自のキャンペーンを展開し、声かけ等推進に協力してくれています。年間を通してイキイキレディース会員に推奨し『家の光』新規獲得実績は1月末現在、新安城支店16冊、三河安城北支店11冊、合計27冊です。

また、さらなる効果もありました。JAの事を知ってくれたフレミズの森会員が親子企画や別の講習会に参加され、その他にもJA広報誌「アクト」に投稿してくれて嬉しかったです。女性組織あんしんレディースは毎年役員の3分の2が変わりますが、「また何か家活をしましょう」と「小さいスプーンやピックが入るポケット折り紙」（2018年6月号）を作ることでコミュニケーションが深まりました。その後の協議も活気づき3月にサークル活動の作品展開催で意見がまとまりました。支店まつりが中止となりまだ感染症で活動制限がある中、イキイキレディース会員たちも何かできることをしようと積極的に考えていて、私も負けてはいられないと感じています。

次年度の取組は「フレミズの森」の活動を続けて定着させていくことです。有益な知識や体験を共有し、仲間づくりを後押しすることで女性組織活動の活性化を図り、JA理解者づくりに努めていきます。

「家の光ディスプレイコンテスト」に参加して

福井県 J A 福井県 春江支店 共済課

笹原 久美子

「《家の光ディスプレイコンテスト》を開催」という文書が回覧されるや、私は即「やらせてください！」と手を挙げました。信用部門や共済部門でのディスプレイのコンクールはこれまでにあり、信用共済の窓口担当者として、何度か参加してきました。しかし、今回は「家の光ディスプレイ」という、今までにない、ちょっと斬新なことができそうなコンテストのように思われ、応募を決めました。

私が勤務する春江東支店（令和4年1月24日から春江支店に統合）は、組合員の方よりも准組合員や員外の方の来店が多い支店です。『家の光』という利用者によってはあまり馴染みのない農業家庭雑誌を紹介するには、とにかく興味を持ってもらうことが一番だと考えました。

それでメインのディスプレイ場所は、来店される利用者のもっとも目にとまるところに定め、「ちょリス」や「よりぞう」といった J A バンクのかわいいマスコットの力も借りて、複合的に展示することにしました。そうすれば、老若男女を問わず、すべての方に見ていただけるのではないかと考えたからです。

さらに、季節を感じていただけるデザインを背景にすれば、何度も来店される方でも、飽きずに見ていただくことができると思い、ハロウィンやクリスマスといった時季にあわせてディスプレイを変えていくことにしました。

また、支店内の1ヶ所だけにディスプレイするのではなく、お客様が座って待っている場所にも展示する方が、より目に付くと思いました。ただ残念ながらその場所は少々狭く、大きな展示をすることができませでした。

しかし狭いながらも、何か目に付くようなディスプレイをと考え、歌手のライブなどでよく使われる「応援うちわ」を飾ろうと思いつきました。興味を持ってもらうことを第一に、“推し”や“ハッシュタグ”などの文字を使い、1枚1枚デザインを変えて、自分なりに工夫しながら、本物さながらのうちわを作ってみました。

ディスプレイをしてみると、利用者からは好評で『家の光』から話題がつながり、会話が弾むようになりました。今回のディスプレイコンテストの要項では、「12月号をディスプレイ」ということだったので、記事の紹介だけでなく「家の光家計簿」のアピールもおこないました。そうすることにより、『家の光』12月号の販売促進へもつながりました。

『家の光』の見本誌をただ置いておくよりも、ディスプレイをすることで、手に取って見てくれる方も増えました。また、窓口での話題としても、『家の光』を入り口として『家の光』→「家の光家計簿」→さらに「家計」→「貯蓄」へと話がつながっていきました。「ディスプレイコンテスト」を一つの発端として、別の事業領域へと波及していった訳です。

また、JAバンクの「ちょリス」「よりぞう」などのマスコットを使ったことにより、子供たちも興味を持ってくれました。子供が見ることにより、若い親世代の方にも、展示してある『ちゃぐりん』を手掛かりに、話ができたりしました。JAから管内小学校へ『ちゃぐりん』を寄贈していて、教室に置いてあるという話をすると、一緒にいる子供さんが「学校にある、読んでる」と、言ってくれたりしました。子供が喜ぶと親御さんも喜んでくれます。

今回のディスプレイを検討する中で、同じ支店の職員が気にかけてくれて、アイデアを出してくれたり、アドバイスをくれたりしました。自分のみならず支店の職員みんなが『家の光』に興味を持つようになりました。渉外担当の職員は、訪問先などで『家の光』のことを話題に出してくれたりもしたようです。

「家の光ディスプレイコンテスト」に参加したことをきっかけに、利用者（外）へ『家の光』を広めていくだけでなく、職員（内）に対しても『家の光』の意識付けができたように思います。これはとても良い効果だと言えます。

また、自分自身も『家の光』をアピールするということを考えながら、『家の光』を改めて読み返すと、今まで気づかなかった魅力を再発見することができました。

「家の光ディスプレイコンテスト」を終え、年が明け、春江町内の春江東支店・大石支店は閉じて、春江支店一ヶ所に統合となり、私は春江支店勤務となりました。

新たな春江支店にて利用者をお迎えする毎日に、まだまだ慣れないことの連続です。しかし、組合員・ご利用者との距離が離れてしまうことなく、これまでと同じように、地域の皆様の身近な存在であり続けたいと思います。

信用・共済・営農・生活等を含む総合事業の中で、『家の光』という年間を通じてディスプレイできる、お客様に自信をもっておすすめできるツールをつかめたことで、今まで以上の力を得たような気がします。これからも引き続き『家の光』を展示・紹介しながら、窓口業務をすすめていきたいと思っています。

『家の光』は私の道しるべ

山梨県 JA 南アルプス市 営農指導部

五味 広子

昨年4月に初めて就任した生活指導課の業務に戸惑いながらのスタートでした。コロナ禍の中、女性部活動、女性部研修会、女性大学学習会、何をしたら良いのだろうか？そんな中、『家の光』を活用した学習会に家の光協会から講師が来てくれる事を知りました。

女性部活動の右も左もわからない私には、なんてありがたい取り組みだと思い、さっそく、『家の光』に目を通してまずは、高齢者も多い女性大学にはこれだ！と思い「シニアの食事お悩み解決」（2021年9月号）、女性部研修会では、「食品ロスを減らすワザ」（同月号）を家の光協会へお願いしました。講師の手配もして女性大学生、女性部員にも案内をして開催日を待っていましたが、新型コロナウイルスの波が押し寄せ、家の光協会のある東京都は緊急事態宣言、我々の山梨県はまん延防止等重点措置が出され、私は計画した学習会等はできないと思っていました。

しかしながら、開催1週間前に山梨県のまん延防止等重点措置が解除になり、役員さんに相談すると「開催しましょう！」と即答でした。

緊急事態宣言中の家の光協会からは来てもらえないでしょう・・・

それでも役員さんの熱意に迷っている時間はありませんでした。

上手くできるか分かりませんが、私がやるしかない！と思い、どうすれば皆さんに分かりやすく伝わるかを考え『家の光』を読み込みました。

9月19日の女性大学では初めて50人以上の前に立ち緊張のもとに始めましたが、パタカラ声の運動・ペットボトル運動・ごぼう体操など、実演を交えての講演を皆さん興味津々で聞いてくれました。

最後には、A コープ店で扱っている介護食にもなるレトルト粥を紹介して参加記念品でお配りしました。「こんな便利な物があるんだね」「A コープに行ったら見てみるよ」と喜ばれました。

私は研修会等から次へ繋がる活動の展開を行っていこうと考えました。

この経験から、9月30日、女性部役員研修会で『家の光』2021年9月号の「食品ロスを減らすワザ」を題材に、私が講師として、ご自分の台所、お買い物から出来るところから食品ロス問題に取り組みしましょう、そしてご家庭で余った食品を管内にあるフードドライブに寄付しませんかと提案したところ、皆さん賛同してくだ

さり、今回だけでなく年間通して行いましょうということになり、新しい女性部活動がスタートしました。

2か月単位で2支部ずつ担当して支所に食品回収ボックスを置き集めることになりました。また、年間通して本所ロビーにも回収ボックスを設置してJA役職員にも呼び掛けました。

10月、11月と担当地区の女性部員、JA役職員の協力で80キロを超える食品が集まり、フードバンク山梨へ寄付を行いました。今月も集めた食品を寄付しました。

「コロナ禍でもできる活動をしましょう」という目標に活動をできたことは嬉しいことです。

予定していた研修会も無事に終わってホッとしたところ、コロナ禍で1年以上休部していた手芸部の部員さんから、「こんなに長い間活動ができないなら解散しませんか？」と言われ、これは困ったどうしようと、また『家の光』を見ました。

2021年9月号の「新聞紙エコバッグ」を試しに作ってみたら身近な材料でできるし、これを手芸部でたくさん作ってAコープに置いてもらい女性部活動をPRできたらいいなと考えました。Aコープ店長にお願いしたら快諾して下さいました。

手芸部に「新聞紙エコバッグ作り教室」をご案内したところ約2年ぶりの手芸教室に大勢の部員さんが集まってくださり、エコバッグ作りとAコープ店に設置しての女性部PRに皆さん賛同してく下さり、さらに部員さんのアイデアで女性部員・女性組合員募集のチラシをでき上がったエコバックに貼ってアピールしましょうとチラシも作り貼ることにしました。

作り方を一通り説明すると、久しぶりの活動に皆さん生き生きと作成されてバッグが次々とでき上がり、後は家で作りましょうということになりました。

嬉しいことに翌日から事務局に続々とエコバッグが届き女性部役員と一緒に2店舗のAコープ店長にエコバッグとチラシをお届けしました。エコバッグはAコープ店でも好評であつという間になくなり現在も手芸部で作り1000枚を超えるエコバックをお届けしています。継続して活動した甲斐があつて女性部員加入、女性組合員加入に繋がりました。

そして嬉しいことに女性部員の方が山梨県家の光大会でこの新聞紙エコバッグ活動を発表してく下さり見事に最優秀賞を受賞され全国家の光大会に出場しました。

『家の光』から広がったコロナ禍でもできる新しい活動ができました。

女性部の活動目標にも掲げたSDGsに繋がる活動が出できました。

4月には、『家の光』掲載の農作業事故対策の記事を果樹女性講座で取り上げる予定です。毎月の『家の光』を見て今度は何をしようかとワクワクします！

『家の光』は、私の道しるべとなっています。

“在宅家活”で気づいた家の光の良さ

静岡県 J A しみず 営農部 営農企画課

萩原 靖子

私は J A しみず女性部の本部事務局として、『家の光』の普及を推進する役割がありますが、これまで女性部活動ではあまり『家の光』が活用されておらず、部員や支部事務局（以下、事務局と表記）の間で『家の光』の良さが共有されていないのが普及につながらない原因の 1 つだと感じていました。

2020 年 5 月に静岡県女性協より、新型コロナウイルスの感染拡大が広まり、今までのような女性部活動はできなくなったことから、在宅活動を広める提案がありました。そこで「『家の光』を使って在宅活動をすれば、今よりもたくさんの人が必ずページをめくる！」と思い、昨年度、在宅家活を全 11 支部に提案しました。

私からは、①部員各々が自宅に取り組める、②多くの部員が取り組みやすいもの、という前提で、例えば、毎月連載「あなたとわたしのハッピーアワー」の川柳道場や「つながるひろがる 絵手紙のわ」にみんなで投稿したり、「手芸」の記事を活用し、材料を部員に配って自宅で作ったらどうかと各支部の支部長と事務局に提案しました。そして、取組み結果は、展示や回覧でたくさんの人に見てもらってほしいとお願いしました。

各支部では、年間 1 回以上の実施を目標に、支部長と事務局を中心に取組みたいことを考えてもらい、在宅家活を行いました。

早速、取組んだ支部の在宅家活は、『家の光』2020 年 7 月号に掲載された「簡単！手作りストックマスク」でした。ちょうど世の中はマスク不足で、4 支部が取組みました。部員から、「実物大の型紙が付いていて作りやすかった！」、「ストックキングで代用するマスクゴム、耳が痛くなくなっていていいね！」と、記事をしっかりと活用してくれたからこそその反応が見られて嬉しかったです。

提案から 4 か月後の事務局会議では、在宅家活の取組みについて報告しあい、『家の光』とともに作品を店内に展示している写真や部員からの感想などを情報交換しました。また、事務局にも家活の楽しさを味わってほしいと思い、2019 年 11 月号「押し花お薬手帳ケース」のキットを取り寄せて、会議の中で作ってみました。いままです手芸キットに興味がなかった事務局が（私もその一人でした）、「かわいい～！」、「意外とすぐできるじゃん！」、「キットは用意も簡単だからいいね！」とその魅力に気づき、その後、2018 年 5 月号「押し花入りフラワーボールペン」、2020 年 9 月号「17 色のビーズブレスレット」など、いろいろな支部で手芸キットを使った家

活につながりました。

そして、事務局からは、部員の顔写真と手芸に取組んだ感想を貼って在宅家活の様子を展示したり、展示を兼ねて押し花入りフラワーボールペンを来店客が使うボールペンとして窓口に設置したら、お客様との会話が弾んだという報告をもらい、そこには自ら考えて家活を活性化している姿があり、事務局の意識が変化してきていると感じました。結果、1年間で13個の在宅家活が実施され、のべ478人の部員が参加。部員が720人なのでこの参加人数の多さには驚きました。

今年度も在宅家活は継続し、その中でも家活を女性部だけではなく、職員や地域への取組みに発展させた支部の事例を紹介します。それは、「あなたとわたしのハッピーアワー」の川柳道場のお題を使った川柳大会です。昨年度は女性部が作った川柳を店内に掲示して好評だったので、今年度は、職員や地域住民にも参加を呼びかけ、第2回川柳大会を開催しました。『家の光』2021年12月号の川柳道場のお題「猫」と「お題なし」で1か月間募集し、いろんな人が川柳作りのひとときをさまざまな場所で楽しみ、全部で87句の川柳が集まりました。そして、支部役員と支店職員による投票で選ばれた6つの入選作品は、女性部習字サークルのメンバーが毛筆で書いて、ユニークな賞のネーミングをつけて店内に掲示し、多くの人の心を和ませました。在宅家活をきっかけに、コロナ禍でも女性部と職員、地域の人たちが共通の話題でつながり、心の距離がぐっと近くなることができたと思います。

また、すべての句を『家の光』に応募したところ、2020年6月号の読者文芸に部員の句が佳作、2021年1月号の読者文芸には職員の句が入選し、さらにJA内でも話題になりました。

2年間の在宅家活をきっかけに、間違いなく『家の光』のページをめくる回数が部員も事務局も増え、『家の光』の良さを実感しています。なによりも、事務局の意識が目に見えて変化したことが想定外で嬉しく、すきま時間ができる『家の光』を開き、いろいろな活動を女性部に提案したり、さらには女性部活動を超えて、店内購買品のブースに、商品と関連した『家の光』の記事をポップとして掲示したり、事務局が自発的に『家の光』を読んで、考えて、良さを発信するために工夫するようになったことは、この先必ず普及に実を結ぶはずです。

これからも、日常業務に『家の光』を取り入れ、良さを知って伝える事務局が増え、女性部の家活が活性化していくよう、本部事務局として仕掛けていきます。

それぞれの個性が光る活動を!!

愛知県 J A あいち中央 安城西部ブロック

岩 井 ゆ か り

安城西部ブロックは4支店あり、去年1度も活動できていない組織もありました。例年通りやってもダメ！ 衰弱の一途をたどってしまう！ 今年こそは全組織で何か、開催したい！！ という思いが強くなりました。

組織活動もいろいろあります。個々に趣味趣向は違います。「コロナ禍で何ができる？」「何をすると楽しい？」個性が生きるハンドメイド、感染予防を徹底してできる料理教室の工夫、子連れでも参加できる環境作り、バスでお出かけできない時の気分転換など常に考えています。「何かやってみたい事があったらリクエストしてね」と声をかけ意見も聞くようにしています。

毎回、仲間作りには「家の光 記事活用」ハンドメイドなどをおこないます。

私のやり方は、いろいろな材料を揃えておき、自分の好きな物を使ってもらう、いわゆるバイキングスタイルです。「何色にしようかな？」「これをここに置いてみたらどうかなあ？」などと楽しそうな会話が飛び交います。私は「これを使ってもいいよね」そんな簡単なアドバイスをする程度です。

知らない人同士もいつのまにか仲間意識が湧いてきます。そしてでき上がると、それぞれの個性でオンリーワンの作品が完成し、大変満足して頂けます。

全く違う出来栄えを見せ合って、おしゃべりしている様子を見ると、私も楽しくなります。

家活で『家の光』2021年5月号「UVパール3WAYネックレス」、2021年7月号「砂を重ねて描く グラスサンドアート」、2020年12月号「ペーパーストローで作る ヒンメリ」などを作りました。自由なスタイルが自発性を生み、楽しく明るい雰囲気を作り、そして参加者はリピーターになり口コミで広がります。もちろん未購読者には個々に声掛けをします。これが私流の仲間作りです。

家活は、がやがやワクワク会議や、みのりの会の会員勉強会の時にも取り入れ『家の光』2015年2月号「色画用紙の花びらギフトボックス」や2021年4月号「折り紙で作る フラワーリース」など短時間でできる物も作ってみました。

堅苦しい会議の場も、一気に明るく楽しい雰囲気になりました。

コロナ禍なので思いっきりはできませんが、人間関係が希薄になりがちな今、少しでも会話の弾む機会を作る事は、癒される大切な時間だと思います。

また今年度新たにスタートした55歳以下の女性組織「フレミズの森」の対象者は

今まで、組織活動に参加した事がない方がほとんどです。来店者に窓口で「会員登録をしておくといろいろな行事の案内が届きますよ！」「登録は無料で、参加する時は会費が必要ですよ！」「世代が近い方達の会なので、近くのお友達もできるかもしれないですよ！」などと声をかけ、会員になっていただきました。

若い方には特に「登録無料」「参加は拘束しない」などの気軽さが受け、現在会員は70名です。内容は若い方が興味のあるような事をくらしの相談員皆で決め「時短」「食の安全安心」「ハンドメイド」などとし、家活では2019年7月号「オープン要らず！ 焼かない夏のケーキ」、「飾り巻き寿司」などを取り上げました。

「子連れでも大丈夫？」と問合せがありましたが、子連れでも安心して参加できるように、ふれあい担当者が見守るなどの環境作りに心がけました。

ベビーカーを引いて気兼ねなく参加できる場所は、日頃子育て真っ最中のお母さんにとって、安心して相談できる場所・ストレス解消できる場所になってもらえると嬉しいです。JAの色々なことを知ってもらい、JAのファンになってもらえたら素敵です。フレミズの森は今年スタートしたばかり、次年度更に活性化する事が最大の課題です。

またウォーキングも再開。西歩女会では久しぶりにバスで「天竜峡」へ、ピーチ会では地元の公園「デンパーク」に現地集合をしてもらい、ウォーキングしました。スタート時に万歩計を渡し、歩いた歩数で賞を決めました。

久しぶりの再会に気分も上がり、皆が楽しめる賞も作り結果発表は大盛り上がりでした。参加された方も「行けて良かった。すごく楽しかった」と喜んで頂け、いろいろな話ができ、「JAの事がもっと好きになった！」と言っていて嬉しかったです。

コミュニケーションを取ることが日々の暮らしの中でいかに重要か実感します。その他新たに「フラ教室（親子4回コース）」や、「スマホ教室」も開催しました。

スマホ教室は、大好評でした。コロナ禍で集まることが困難な今、SNSで情報収集、繋がりをもつ事を、年齢を問わず求めている事がよくわかります。これからはオンラインを使って情報の共有をしていく事も必要だと思います。

家活を継続する事で、家の光が暮らしに必要な家庭情報誌である事に気づいてもらえ、普及に繋がっています。

このように、組織活動を行っていく中で「活動できる人が・したい時に・活動したい事を・したいやり方で・皆で行う」この女性組織基本方針のように、皆が自主、自立いろいろなアイデアを持ち寄り自由に活動する。そんな風に活動ができる事に感謝と喜びを感じ、その時間を大切に仲間作りの輪を広げていく事を目指して、これからもみなさんと楽しく活動を続けていきたいと思っています。